

令和5年度第2回熊毛地域保健医療福祉協議会の開催結果について

日 時：令和6年2月5日（月）14時30分～15時50分

場 所：熊毛支庁 第1会議室

出席者：13名（田上委員，榎本委員，中村委員，新家委員，宮崎委員，上籠委員，澤柳委員，八板委員，田淵川委員，小園委員，野崎委員，遠藤委員，伊集院委員）

1 概要

（1）議事

- ① 保健医療計画「資料編」（案）について（資料1）
- ② 令和5年度熊毛地域の保健・福祉・環境関係の主な取組について（資料2）
- ③ 「熊毛地域振興の取組方針」に係る令和5年度の取組について（資料3）
- ④ 健康危機対処計画について（資料4）
- ⑤ その他

2 意見，質疑等

（1）保健医療計画「資料編」（案）について

- ・ 意見等なし

（2）令和5年度熊毛地域の保健・福祉・環境関係の主な取組について

- ・ 新興感染症への取組について今年度は会議の実績があったが，来年度の取組予定についてはどうか。
→ 来年度以降も開催する予定である。
- ・ 高齢者等の介護施設等への入所について，県の福祉施設等への入所指針に基づいて指導されているものと理解しているが，南種子町では入所を待つ待機者が多くなっている。それぞれの施設へは県及び市町村が入所指針の適正な運用について指導・助言を行うものとなっているが，管外の施設については指導等は難しい面もある。各施設において公平公正な判断基準での決定がされるべきと考えるので，県の方でも是非このような声があったことを受け止めていただき，各施設において適正な運用が行われるよう御指導いただきたい。
→ 今後とも監査項目に基づきしっかりと行っていきたい。
- ・ 医療・福祉人材確保対策について，それぞれが色々な取組を行っているところだと思う。この件については離島行政懇談会等でも意見が出ているが，全体として進まないようなので，南種子町では独自で補助の予算を組み，取り組んでいる。出来れば，熊毛管内において協力をし合いながら人材の育成・確保対策について具体的な取組をやってもらえればありがたい。6年度に向けて検討いただきたい。
→ 種子島地区福祉人材確保対策協議会では，各事業所，各市町の担当係に参加いただいております。幅広く意見交換をしながら対策を考えているところである。来年度以降も引き続き御意見を伺いながら考えていきたい。

(3) 「熊毛地域振興の取組方針」に係る令和5年度取組について

- ・ 意見等なし

(4) 健康危機対処計画について

- ・ 意見等なし

(5) その他

- ・ 医療・福祉・人材確保対策について、特に医師確保が一番大変な状況である。現在、鹿児島県の医師確保計画に係る素案が示されているが、離島医療については具体的な記述がない。先般、総務省の研修で、国としては県立病院を始めとする基幹病院からの医師派遣の強化を含めて医師確保計画の充実をお願いしたいという旨の発言があったと聞いているので、是非県が先頭に立ってこの問題に真剣に取り組んでいただきたい。種子島全島で見れば種子島医療センターもあるが、南種子町からは60km離れているので、やはり公立種子島病院が重要な病院であるという認識の下、医師確保について県もしっかりと考えてほしいという思いがある。種子島の縦に長い地形的なことも十分ご理解いただき、また、コロナが大変な状況になった時も公立種子島病院は役割をしっかりと果たしたことを踏まえ、今回の県の医師確保計画において、しっかりとした記述をもって離島のことを御理解いただきたい。
→ 医師確保についてはどこの地方も苦しんでいるところである。県では、地域枠の医師等を含めて各医療過疎地域への医師派遣を行っているが、恐らく、種子島に関しては1つに集中させた支援という形で現在は行われているものと思われる。南北60kmを1つと考えていいのかという御意見があったところなので、それも踏まえて、県の医師・看護人材課とも話をし、今後どうしていくのかを含めて検討させていただきたい。
- ・ 能登半島地震という大きな地震が発生し災害復旧や支援が続いているところではあるが、災害というのは全国で発生する可能性がある。特に熊毛地域は離島であり過疎的な地域でもあるので、災害発生時の対応は一層の重要性を持っていると思う。資料1の保健医療計画資料編に、災害が発生した際の医療連携体制の図を示している。実際の対応のベースとなるものなので、皆様にも意識してもらい、医療連携体制を構築していただきたい。熊毛支庁としても何ができるかを探っているところであり、今後、自治体の皆様、医療機関、消防等も含めてアドバイスをいただくことを考えているところなので、是非御協力いただきたい。
- ・ 緊急時の救急医療の観点から、ドクターヘリの運用に関して、運航開始後、離島としては搬送や救急の対応において非常に貢献してもらっている。ただ、夜間の運航については実施されていないので、自衛隊や海上保安庁に担っていただいている。ドクターヘリが24時間運用できるのが理想ではあるが、せめて、運用時間の拡大について対応していただけないかと、鹿児島市の市長会やその他各種会議において提言している。費用がかかるものなので、是非、国や県にも協力いただきながら、体制を整えていただきたいと考えている。この場に居る

皆さんについても是非これについて問題意識を持っていただき、それぞれのところで要望として考えていただければと思っている。

- ・ 救急に関する様々な意見やドクターヘリに関する意見をいただいたところだが、公立種子島病院の医師確保も含めて、これらの件については正に救急隊の実働にリンクするものなので、医師の確保については切に、是非お願いしたいと思っている。また、ドクターヘリの夜間運航については先般、運航調整委員会に出席してきたところで、そこでも意見として出ていた。その中で、今後は医療体制の充実も並行して考えるべきではないかとの意見をいただいた。医師の確保、救急の医療体制、島外への搬送はすべてリンクするものと考えており、関係団体との連携が切に重要な問題である。引き続き、医療体制、救急体制、搬送体制など、これらはリンクするものと考え、是非、関係団体での協議を進めることにより問題解決をしてほしい。救急の需要は増加しており、医師の確保が難しい中で受け入れを行っていただいていることについても、この会議で皆さんに認識していただければと考えている。
- ・ 医師会としても、医師の確保については是非県の方に働きかけてほしいと思っているので、よろしくお願いしたい。